

嘉庫 嘉悦大学学術リポジトリ Kaetsu

University Academic Repository

巻頭言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-12-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 寛, カトウ, ヒロシ, Katou, Hiroshi メールアドレス: 所属:
URL	https://kaetsu.repo.nii.ac.jp/records/232

巻 頭 言



嘉悦大学
嘉悦大学短期大学部
学長 加藤 寛

2008年4月より嘉悦大学の学長を拝命いたしました加藤であります。職責上、就任挨拶を兼ねまして巻頭言を書くよう依頼を受け一筆したためることにいたしました。しかし何分、新米のため、思わざる認識不足があるため御叱声を受けることがあろうかとも思いますが、あらかじめお詫びを申し上げておきます。

私は何よりもこうした同人誌が設立以来、続いていることを心より感銘しております。なぜなら、かかる雑誌を維持するには多くの執筆者とそれを支える資金なしにはあり得ないからであります。私も長く「三田学会雑誌」というかなり伝統のある雑誌の編集に携わってまいりましたが、悩みはおそらく同じであろうと考えています。第一にまず毎号発行していくための資金が要ります。「三田学会雑誌」も大学よりの援助があったり、学生資金を教科書の一部として投入したりして、発行の持続に苦慮したこともありました。学生資金を投入して一時は安堵しましたが、自分の研究する高度の内容を学生に教える材料にはできないという反論もあり、そのために投稿が減り、今度は原稿不足で定時発行が困難になりました。また発行しても全学生に配布することにその方法が見当たらず山積みになることもありました。試験問題に関係ありとなると、たちまちさばけることもありました。現在でもこの方式が続けられています。

SFCではこうした雑誌刊行・編集を、いまや学部学生がやるようになり、内容も学生が興味をもつ編集になり、安定的に刊行されています。また個人的に発刊を企てた「公共選択の研究」は、時代の波に乗って、不安な時期もありましたが、専門家集団が支えてくれてついに五十号を刊行するようになりました。これは専門領域の研究が活発になったからで、現在では、数多くの大学が論文を持ち寄り議論を戦わせ優劣を競わせながら、学生を同志として養成するようになりました。いずれにせよ、同人誌の継続には尽きせぬ悩みがあります。この紀要の持続に感謝。

第二の悩みは、執筆者の確保、そして投稿の気はあっても期日までに間に合わぬ原稿も続出します。編集者は毎回のよう電話をかける、メールを打つなど、原稿集め

に奔走し、自分の原稿を代わりに投稿する事態もおこるため、自己論文の蓄積が必要になります。多くはこうした時は論文投稿の資格制度を緩和したりして切り抜けることが多いようです。最近すぐれた論文に出会って「まなこからうろこの落ちる」気分を味わうと同人誌発行の継続を祝いたくなります。

第三に、紀要ですぐれた論文を投稿されたら、博士論文に結びつけていきたいことが一つ。もう一つは福澤諭吉がやったように専門論文を今度は下女が理解できるよう噛み砕いて発表すること。私たちの戦後は自らの論文を発表したくてもそれを刊行してくれる雑誌がありませんでした。そこでずいぶんすぐれた論文が埋もれていたに違いありません。福澤諭吉はそれをいったのでしょうか。障子の外で読んで下女に聞かせてはじめて彼は納得しました。専門家はつい自分にわかればよいと思いがちです。しかし自分の理論が世間に膾炙しなければ実学になりません。実学には実験という内容もありますが、社会科学ではいかに自分の理論を世に問うかでしょう。

この紀要の一つ一つのすぐれた研究結果をどんどん世に問うていただけたら幸いです。